

2024年6月23日 主日礼拝 聖霊降臨節 第6主日

説教題：「**正義の実行と神への愛**」

聖書箇所：ルカによる福音書11章37 - 46節（130頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 48 交読詩編：86編1 - 10節（94頁）

讚美歌：83/149（わがたま たたえよ）/464（ほめたたえよう）/561（平和を求めて）/27

「今週の聖句」〔それにしても、あなたたち…は不幸だ。…野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行なうべきことである。〕

（ルカ伝11：42）

「牧師室の窓」 「コロナ禍に 息を潜めて 四年半 激動の時代 ピリオドたりしや」

「歴史的 コロナ時代を 顧みつ 梅雨の雨音 心の和（なご）む」

(1)皆様おはようございます。6月も下旬を迎えました。一昨日(おととい)の6月21日(金)夏至の日に関東では梅雨に入りました。昨年ならびに平年よりも約2週間遅いとのこと。梅雨明けは例年であれば7月20日頃になり、例年の梅雨の期間は約6週間です。今年の梅雨入りは2週間ほど遅くなっていますので、どの様になるのかが案じられます。きょうの聖書箇所に「野菜」のことが出ています。野菜の育成には適度な雨降りと太陽の光が不可欠ですので、心配しています。最近、皆様ご存じのとおり、野菜の値段が随分と値上がりしています。小学校などでの学校給食の食材確保が難しくなっていると報道されています。今年の夏の天候状況によって、野菜の育ち具合や値段、学校給食がどの様になるのかについて関心を持って参りたいと思います。高校生と小学生の孫たちに調査研究課題にしてはどうかしらと勧めてみたいと思っています。野菜に限らず、モノの値段を理解することは大切です。何故ならば、値段とは需要と供給によって定まると同時に、人間が働いた（汗を流して働いた、知恵を工夫して働いた）労働力の価値、汗と知恵と努力の価値であるからです。その価値をどの様に判断するのか、価値判断するのが、その社会の実力であると言えます。

本日の聖書箇所には、「不幸」と言う言葉がたくさん出てきます。本日の朗読して頂かなかった箇所も含めて、37節から、この段落の終わりの54節までに6回出ています。新共同訳聖書には「**不幸だ**」と翻訳されていますが、聖書協会共同訳では「**災いあれ**」と訳され、口語訳聖書では「**わざわざである**」と翻訳されています。ギリシャ語の「οὐα ι(ウーアイ)」は「ああ！かわいそう」と言う意味あり、決して「災いが降り注ぐようにとの、呪いの言葉」ではありません。つまり、イエス様はファリサイ人や律法学者に対する価値判断をされているのです。価値判断とはモノの見方、見え方であります。今日の箇所からイエス様の考え方を理解して参りたいと思います。

(2)きょうの聖書箇所の37節を見てみましょう。〔(11:37)イエスはこのように話しておられたとき、ファリサイ派の人から食事の招待を受けたので、その家に入って食事の席に着かれた。〕ここに書かれている「ファリサイ派」とは律法の規定を重視する人々であり、46節に記されている「律法の専門家」或いは律法学者とは、律法を研究する学者であり、当時の最高議会（サンヘドリンと言います）の議員になっている人が多くいました。イエス様のことを良く思っていないファリサイ派の人から食事に招かれ着席したのです。54節には〔(11:54)…言葉じりをとらえようとねらっていた。〕と書かれています。この発端は38節です。〔(11:38)ところがその人は、イエスが食事の前にまず身を清められなかったのを見て、不審に思った。〕「食事の前にまず身を清め」るとは、言葉通りの意味は身体を水の中に浸(ひた)して清めることですが、この38節では当時の習慣として食事の前に手を洗う動作を意味しています。イエス様は食事の前の手洗いを

うっかり忘れてしまったのでしょうか。どうもそうではなさそうです。場面こそ食事を共にしようとするファリサイ派からの友好的な善意の申し出の様に思われますが、イエス様を陥れようとする「謀略・罠(わな)」が仕掛けられているのです。「罠(わな)」は英語でtrapと言いまして、経済学には「流動性の罠」と言う言葉があり、金融政策が効果を生じなくなる状態のことを言い表します。私たちの日常生活でも、人生の思いがけない時にも罠(わな)が待ち受けているのです。また「罠(わな)」とは、人間が考える力を停止させてしまうことでもあります。その様な時には、はっと気づいて、きょうの聖書箇所を思い出して、自分自身を取り戻す、振り返ってみては如何でしょうか。

(3)今日の聖書箇所の場面に戻ります。38節のファリサイ派の人が「不審に思った」ことと、39節の「主は言われた」こととが続けて書かれています。この2つの節の間には何らかの会話があったのですが、省略されていると考えられます。39節には、イエス様が目の前の食卓に置かれている「杯や皿の外側」をご覧になり、即座に「ファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている」と言われました。続いて40節では、

〔(11:40)…外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか。〕と言われました。皆様はこの「外側を造られた神は、内側もお造りになった」という言葉から何を思われるでしょうか。

「外側を造られた神」とは、創世記の天地創造で神はアダムとエバを造られました。「内側もお造りになった」とは、詩編139編13節に「あなたは、わたしの内臓を造り、母の胎内にわたしを組み立ててくださった」加えて15節には「あなたには、わたしの骨も隠されてはいない」と詠われています。続いて、今日の41節書かれている〔(11:41)ただ、器の中にある物を人に施せ。そうすれば、あなたたちにはすべてのものが清くなる。〕の「器の中にある物を人に施せ」とは、神や貧しい人々に物惜しみせずと与えることによって「そうすれば、あなたたちにはすべてのものが清くなる。」と言っておられるのです。ファリサイ派や律法学者たちが主なる神や貧しい人々に対する形ばかりの信仰や施しを非難しておられるのです。現代に即して言えば、ウクライナやガザでの住民に対する一方的な戦争殺害に対して、キリストの教会やキリスト教の学者が見ざる・言わざる・聞かざるの三猿(さんえん)を決め込んでいる状況をイエス・キリストはどの様に感じておられますでしょうか。

(4)続いて42節を見てみましょう。ここには〔(11:42)…あらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もおろそかにしてはならないが。〕と書かれています。これは旧約聖書レビ記の一番最後である第27章に献げものに関する規定があります。旧約聖書209ページ、レビ記27章30節です。〔(レビ記27:30)土地からとれる収穫量の十分の一は、穀物であれ、果実であれ、主のものである。それは聖なるもので主に属す。〕実に不思議な規定・ルールではありませんか。自分が土地を耕し、懸命に育てて得られた農作物の十分の一は自分の所有物ではなく、主のものであると言うのです。加えてその理由が不思議です。「それは聖なるもので主に属す」と言うのです。何処からこのような考え方が、判断が生まれてきたのでしょうか。現代の民主主義や個人主義の考え方には全く含まれません。私が知っている範囲では、経済学の背景には「見えざる神の手」の働きがあると言うこと、また、多くの人々に経済的恩恵を配分することを目的とする公共経済学と言う分野があります。また、地球温暖化を回避しようとする行動も聖なるものに該当するかも知れません。皆様もこのレビ記27章30節、そして、ルカ福音書11章42節について、夫々にお考え下さることをお勧めいたします。聖書の不思議さを、奥行きを、豊かさを感じられることでしょう。加えて、私たちの人生が単色の日々から彩りのある日々へと導かれることでありましょ

(5) いずれにしても「聖なるもので主に属す」と言う考え方と、「正義の実行と神への愛はおろそかにしてはならない」と言う考え方は重要です。別の聖書箇所、マタイによる福音書23章23節を見ますと次のように書かれています。〔(マタイ伝23:23)…律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もないがしろにしてはならないが。〕私たちのこの国では「正義、慈悲、誠実」という言葉や考え方が失われつつあるのではないのでしょうか。その理由は、社会構造の変化であると考えられます。日本の社会が階層化・分断化されていること、外国との交流が殆ど進まず国際社会の中で孤立していることなどが挙げられます。細かいことは省略しますが、その様な状況の中で、私たちは聖書に導かれた生活をする、教会が福音を語り伝えることが益々重要であります。礼拝を守ることは「正義の実行と神への愛」そのものであると言い換えることが出来ます。日本の教会の中には、或いは、各教区のような地域の教区の中にも、社会委員会がありますが、きょうの聖書箇所を元手にして、深く議論して、より深く考えて、さらに深く話し合ったいと願っています。深く考えることには費用もお金もあまり掛かりません。人生の時間の一部を神にささげることも大切であると思います。

(6) 私が神学校に在籍中に、2泊3日の研修会がありました。講師としてお招きしたのが京都にある花園大学の教授をなされた方でした。花園大学とは仏教の禅宗である臨済宗妙心寺が中心となって設立した大学です。その先生から臨済宗の禅宗について教えていただきました。私自身は若い時に職場の休暇を活用して、曹洞宗の禅宗について学びました。同じ禅宗でも臨済宗と曹洞宗とは対極にありますが、自分自身を見つめるという点では同じであると思いました。キリストの教会も仏教やイスラム教と対話をして自分の殻を破らなければならない時期にあると思えます。

最後に、きょうの聖書箇所の11章39節にある「自分の内側は強欲と悪意に満ちている」と40節の「外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか」と言う箇所は、宗教の違いを超えてこの世に生きる人間にとっては生きる苦しみであり、生きる喜びであると思います。先週の主日礼拝で読みました11章35節には「あなたの中にある光が消えていないか調べてみなさい」つまり、内なる光が書かれていました。そして36節には「ともし火によってあなたの全身は輝いている」と告げているのです。先週の箇所と今週の箇所とが神の愛によって繋がっていることが明らかになりました。聖書を読む時には、コツコツと読み進むことの大切さと、立ち止まって行きつ、戻りつして読むことの楽しみがあることを知らされる箇所があります。

きょうの聖書箇所もその一つであると思ひ、聖書の豊かさを感じました。皆様は如何でございましたでしょうか。

・・・お祈りいたします。